

- *パウロはエペソの教会の信徒たちに対して「神は天にあるすべての祝福をもって祝福された」という。祝福の内容は4~14節に次々と表されている。そして、これらすべての祝福の土台にあるのは、「神に選ばれた者」であることと、「あらかじめ定められていた」ことである。
- *「選び」とは一般的には、「多くの中から目的や基準にかなうものを取り出す」ということであり、エペソの教会の信徒たち(小アジアの教会、ひいては現在の私たちにも当てはまる)が神に選ばれたということは神の目的にかなうべきものとして取り出されたということになる。ただ、神の「選び」には主イエスが12弟子を選ばれたように大切な使命がある。
- *神の「選び」の目的は「祝福するため」であった。「救い」という最大の祝福を与えるために神の方から一方的に私を選ばれたのである。
 何故私たちなのだろうか。旧約でイスラエルの民が選ばれたのは、彼らが大きく、強かったからではない。特に優れていたからでもない。逆に、彼らはアブラハムの時には小さく、「すべての国々のうちで最も少なかった」(申命記7:6~8参照)のである。新約の時代、私たちを選ばれたのは私たちの弱さを知っておられるからである。神の前には何も誇ることができない弱い私を認めた者が選ばれた者なのである。
「しかし神は、知恵ある者をはすかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をはすかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。」(Iコリント1:27~29)
- *「選び」と「祝福」は永遠の昔から決まっている、という。天地創造から世の終わりにいたるまで、すべてが神の計画の中にある。神は愛をもって計画を実行して来られた。その中でイエス・キリストを信じる信仰を持った者は、選ばれて神の遠大な救いの計画の中に組み入れられている。心から感謝したい。しかし、選ばれたことを誇ることは良くない。自己陶醉や高慢に陥ったり、まだ選ばれていない人たちを差別したりするからである。ただ謙虚に日々の信仰生活に励み、情熱をもってその喜びを人に伝えていく者でありたい。